日刊留萌

2012年（平成24年）10月24日（水曜日）

水準点の石標など展示

留萌合庁でパネル展 増毛山道を紹介

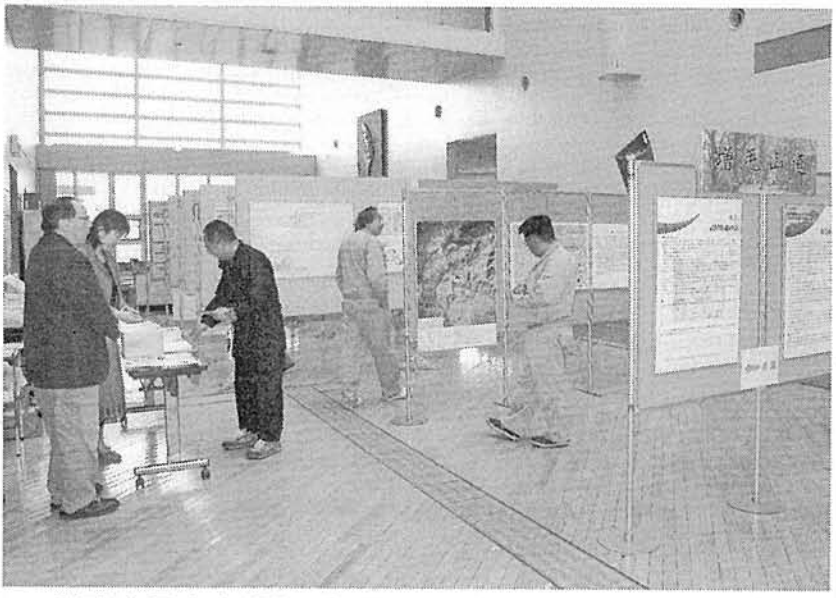
留萌振興局、NPO法人増毛山道の会（伊達東会長）共催の山道パネル展in留萌2012が、22日から留萌合同庁舎1階道民ホールで始まった。江戸時代末期の安政4年（1857年）に開削された増毛山道の歴史を紹介するパネル、増毛町別苅で見つかった1等水準点の石標、床には増毛山道を示した航空写真などが展示され、来庁者が興味深く見入っている。

増毛山道は、マシケ漁場を請け負っていた商人が、自費で開削した増毛町別苅と石狩市浜益区幌間を結ぶ道路（全長約27キロ）。漁場の連絡道やロシア北方警備の輸送路として活用された。振興局と山道の会が協働で荒廃していた山道の復元事業に取り組み、平成21～22年に別苅～増毛町岩尾間の増毛山道抜け道ルート（全長16キロ）を開削。23年からは体験トレッキング（山歩き）を開催している。

パネル展は、増毛山道の歴史や復元の取り組みなどについて、管内外の一般住民の理解の促進、知識の共有を目的とした「山道サミットin留萌2012」の一環として開催した。

今回は、復元作業の様子や体験トレッキングを撮影した写真25点、山道の航空写真（オルソフォトグラフ）、山道の歴史、明治29年の陸軍屯田騎兵行軍演習の新聞記事、武好駅逓の資料などのパネル約60点を展示。明治40年6月に埋石された別苅の1等水準点（8473号）などのほか、道内の殿様街道、礼文華山道、猿留山道、様似山道、濃昼山道の関連資料を展示している。26日まで。

（石山真一）



留萌合同庁舎1階で始まった山道パネル展in留萌2012